

～ NEX T50 新しい時代の創造に向けて ～

『人と自然が輝く やすらぎと活力の大地 陸奥の国』へ



むつ市議会議長

村中 徹也



むつ市長

宮下 順一郎

むつ市となって半世紀、そして『新むつ市』となってから5周年を迎え、この大きな節目を市民のみなさまとともに祝いできますことを感謝申し上げます。

むつ市の50年の歴史は、都市基盤の整備や生活環境の充実が進む一方で、十勝沖地震や度重なる水害など幾多の苦難を乗り越えてきた歴史でもあります。

また、この10年は、下北が一つとなる可能性を模索した歴史とも言えます。この激動の時代を担い、むつ市発展の礎となった先輩諸氏、市民みなさま方のご尽力に敬意を表したいと思います。

弊誌『むつ市50年のあゆみ』は、その時代その時代のむつ市を映し出しています。そして、その時々々に市民一人ひとりの思いもあろうかと思ひます。弊誌をご覧いただき、ご家族やご近所、職場内で、むつ市の歴史を話題に談笑いただければ幸いです。

市民のみなさまとの協働した、まちづくりは、私の基本理念の一つであります。歴史を刻み、歴史を支えた先達が作りあげた財産をさらに大きく確実に未来へと運ぶことが私達の使命でもあります。

むつ市の明るい未来へ夢と希望を託し、『むつ市』という大地にしっかりと根をはり、ともに、語り合い、汗を流し、新しい時代の創造へ邁進してまいりたいと考えております。みなさま方今後一層のご理解とご協力をお願いいたします。

市制施行50周年を市民のみなさまと共にお慶びいたしたいと存じます。

同時に、むつ市議会も50周年、第200回定例会の大節を迎えることができました。これまでむつ市議会を支えていただきました、むつ市民各位に感謝と御礼を申し上げます。

当市は、昭和34年9月1日に旧田名部町と大湊町が合併し、翌年8月1日に日本で初めてのひらがなの市『むつ市』としてスタートをいたしました。以後、平成の大合併を経て、面積863.79km²、人口は6万5千人を擁する下北の中核都市として発展をいたしております。

さて、地方自治制度は、明治地方自治制が成立した後、大正デモクラシーから戦前、戦後体制へと変容がなされ今日を迎えております。その変遷と共に地方議会も『民意の反映』へと基軸してまいりました。しかし地方議会の課題である『市民意識の動態』の洞察権と『二元代表制』の権限委譲はまだ解決されておりません。

このような問題点が存在する限り、我々むつ市議会は而今50年のむつ市発展のため『地方自治体の施策を作るのは誰か?』との問が曲解されることがないよう、むつ市議会第200回定例会冒頭挨拶で申し上げた『品格と気品』『誇りと自覚』をもって市民福祉向上に努めてまいりますので、むつ市民各位のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。